

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4790100475		
法人名	株式会社 しまぶくろ		
事業所名	グループホーム愛		
所在地	那覇市繁多川2-6-18		
自己評価作成日	令和2年10月31日	評価結果市町村受理日	令和3年3月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail/022_kani=true&JigyosyoCd=4790100475-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 沖縄タイム・エージェンツ		
所在地	沖縄県那覇市上之屋1-18-15 アイワテラス2階		
訪問調査日	令和2年 11月 20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一人一人が過ごしやすい環境を作る事、最期までその人らしく生活を送って頂く事を念頭にケアにあたっている。利用者ごとの担当職員を配置する事により、各々の情報収集がスムーズになり、統一事項の共有もスムーズである。医療面では、適切な医療支援を行う為に、訪問医療、訪問看護、との連携を取る環境を整えている。薬剤師や歯科衛生士などからも利用者の健康維持のためにアドバイスを得ている。日々の記録を通して、利用者の身体面・精神面の変化にも俊敏に対応している。また、職員教育の一環に内部勉強会を年間4回以上行っている。近年では、職員同士の言葉遣いのマナーや、アンガーマネジメントなど、職員の健康維持に役立つ内容も取り入れた事に好評を得た。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

住宅街の奥まった場所に位置し、外部からの車の往来が少なく、公開空地を確保している。公開空地が地域の子どもの遊び場となっている。事業所と空地の間に木造の広いバルコニーが設置されており、天気の良い日には、利用者もバルコニーで子どもたちと触れ合っている。職員が飼っている小型犬が、事業所のマスコットの存在となっており、利用者のアニマルセラピー、子どもたちとの交流を促進している。ケアマネジャーと職員のコミュニケーションが良好であり、介護におけるチームケアが実践されている。開設当初に理念の作成に携わった、職員が約半数いることにより、理念に基づく「心」と「笑顔」で接するケアが実践されている。代表者・管理者・職員間の風通しの良い組織が形成され、職員の意見を反映した取り組みが行われている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	リビングの壁に掲げており、常に目にできるようにしている。日々の支援において、判断に迷う時などは職員同士で確認し合っている。	理念は、職員・利用者の視界に入るリビングの壁に掲示している。作成時には、理解しやすい文言を意識した。利用者のケアについて振り返る際の指針となっている。ニーズを出せない利用者の「自分らしく暮らすこと」について、職員同士で話し合い日常のケアを実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域自治会に加入しており、祭りなどのイベントなどの情報はいち早く頂けるので、可能な限り、利用者も参加できるよう、支援している。また、心理療法の一環になればと、職員の飼い犬を施設連れてきて、動物と触れ合う時間を設けている。近隣住民の子供達も窓越しに犬を見に集まってくるので、その子たちを心待ちにしている利用者もいる。	管理者は、地域包括支援センターが主催する地域ケア会議に参加している。会議では、地域の独居高齢者の増加が課題とされ、事業所として協力できることを模索している。地域の自治会に加入し、イベントに積極的に参加している。職員の飼い犬を介して、地域の子どもたちと利用者のふれあう機会を設けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	相談を受ける際は、事業所の特色を解かり易く説明するよう心掛けている。地域高齢者の要望に協力できる事があれば、と包括の支援員にも声掛けしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一度、第二月曜日に会議を開催している。その中で活動状況や、事故・苦情などの報告を行っている。身体的拘束や虐待についてなどの内容を話す事もよくある。施設内でも方向を決めるのに時間を要する内容だと感じています。ご家族や、知見者との意見交換で、現職員も刺激や気づきなどを受ける良い機会になっていると思われる。	運営推進会議の知見者について、地域のグループホーム、小規模多機能事業所等の管理者が出席している。相互の情報交換の役割も果たしている。コロナ感染防止のため、3月の会議から、職員のみで実施し、外部の委員については、文書で報告をしている。	利用者家族、知見者の参加があり、意見交換が行われている。地域代表について、自治会長に依頼は行っているが、参加が困難な状況である。自治会長以外の地域住民等に呼びかけ参加できる環境整備に期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の場で情報交換し、アドバイスを得ている。研修や、法改正についての告知は、メールで受け取っている。解らない事があれば電話で、判断を仰ぐこともあります。	市の担当者とは日常的に電話連絡を行い、関係性を維持している。運営推進会議の時にベッド柵の固定の身体拘束との関連について確認している。利用者の退去時には、入居者の相談を行っている。又、ショートステイの対応のために管理者は研修を受講し、体制を整備している。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は全員「身体的拘束等適正化委員会」に所属しており、三ヶ月に一度の会議を設けている。また、支援に疑問が生じた際なども、その都度、話し合いを行っている。安全の確保と自立支援に基づいた、拘束しない支援を実践している。委員会のマニュアルは、手の届く所に保管し、いつでも閲覧できるようにしてある。	身体拘束をしないケアについて、研修を実施し疑義が生じた場合は、市の担当者の助言を仰ぎ適切な対応に繋げる取組をしている。身体拘束等適正化委員会は、全職員が参加し、3か月に1回開催している。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	「虐待防止対策委員会」にてマニュアルを制作して、いつでも閲覧できる場所に保管している。こういった種類の虐待があるのか把握したうえで、職員同士で確認し合うなど、防止に努めている。	虐待防止委員会を設け、毎月のミーティングで勉強会を実施している。虐待に繋がる職員のストレスについて、管理者は注意を払い、声かけを行い必要に応じて面談を実施している。ケアに際し、気になる点はその都度職員同士で確認する等、風通しのよい職場環境を形成している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	いまの所、後見人制度を利用している方はいらっしゃらない為、支援を行った事がない。今後、対象者が入居される事も想定して勉強会などは行っていく予定。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族と、個人面談を行い、解かり易く説明を行ったうえで同意を得るようにしている。利用料の改定の際も、文書にて同意を得てから行っている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者からは日々の生活で直接聞いたり、様子から汲み取っている。ご家族からの意見や苦情は、面会時に直接話を聞くなどしている。居室ごとに職員を担当化しており、特に担当利用者のご家族とは、日頃よりコミュニケーションを深め、話しかけられやすい雰囲気を作るよう努めている。	コロナ感染防止のため、面会の制限を行っている。家族の面会希望については、ZOOM等のオンラインシステムを活用し実施している。又、窓越しの面会を実施し、利用者・家族双方の希望を実現する工夫を行っている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度行っているミーティングでは、なるべく全員が参加するようにしている。意見交換や、評価する場であり、職員の意見を反映させている。決まった事は議事録を回覧し、共有している。	職員ミーティングで年休取得方法やベダルマシンの購入について話し合いを実施し、管理者が意見をまとめ代表者に報告をすることにより、実現できた。ミーティングでの話し合いでは、職員間の意見交換が積極的に行われ、管理者のとりまとめ、代表者への報告と運営に関する意見が反映されている	
12	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労務士と委託経営している。給与水準、労働時間、雇用保険、社会保険に関して、職員が不安のないようにしている。	開設当初から勤務している職員が、過半数を占め、就業環境の満足度が高い。年休取得について改善が図られた。外部研修の受講について、推奨しており、職員の希望を実現している。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、職員個人個人の力量を把握し、外部研修を受ける機会を設けている。又、実践において、スキルを身に付け、自信を持って働けるよう、内部勉強会用にウェブサイトにて課金する等、職員を育成する資料の確保に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	那覇市グループホーム連絡会に参加し、情報収集・意見交換を行っている。また、近隣の事業所との交流として、認知症カフェに参加したり、知見者として、お互い運営推進会議に参加するなど、交流に努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に暮らしている場所に訪問し、本人の生活状況やADL状況を把握するよう努めている。また、入居体験を行い、これからどのように生活していきたいか等を聴き、馴染んで頂くよう努めている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	上記と同様にご家族とともに十分に話し合えるよう、機会を作っている。最近においては電話での相談が主になっており、近況の変化があれば、こちらからでもまめに連絡を入れるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族がどういった支援を望んでいるか見極めるよう努めている。また医師などの専門家の意見もとりいれて、要望に添えられるような支援に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「その人らしく暮らす」事を念頭に、不安の訴えがあれば、傾聴するなどして、問題解決取り組んでいる。また、出来る事を見極めて、役割を与える事で必要とされている実感を感じてもらえるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	精神状況の安定の為に、ご家族の協力が必要不可欠です。ご家族へ報告が行き過ぎて、逆に不安要素にならないよう、気を遣う事もあるが、現在は良い関係を保っている。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域社会との関係は、本人の家族に聞き、把握に努めている。外出支援を行う際、本人の好む場所に出かける等、社会との関係性の継続に繋がるよう心掛けている。	事業所の駐車場を含めた公開空間は、地域の子どもたちの遊び場となっている。子どもたちの声が聞こえたり、利用者とふれあう機会を取り入れている。コロナ感染防止対策のため、今年度は窓越しの交流の機会を増やす等、関係性の維持に工夫を行っている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングルームでの座席配置に注意を払っている。利用者同士の口論など、トラブルに発展にしないよう注意している。食事や手作業の際、職員も近くに着席する事で、利用者同士のコミュニケーションを活発にするよう心掛けている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院などで、契約終了が決まっても、必要な場合は、相談を受けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	好きな事や、やりたい事など、関わりの中で本人に直接聞いている。意思の伝達が困難な方は、表情や仕草で読みとり、ミーティングで話し合っている。	利用者の思いや意向について、家族からの聞き取りや、日常的な会話から情報を収集している。通常は、ドライブを定期的に行う等、外出支援に力を入れているが、今年度は、近隣の散歩やバルコニーでの外気浴を行い、外出意向に対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人に聞いたり、ご家族に訊ねるなど、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子を、日報の申し送りで確認している。利用者の変化に気付いた職員が、その日のうちに、リーダー業務の職員に報告し、報告を受けた職員が日報に記入する事で、全員で情報が共有できる環境が定着している。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のミーティング、申し送りノートで確認し、ケアの統一を図っている。必要に応じて、ご家族や職員と話し合いを持っている。また、医療やリハビリの専門家にも意見を聞く等して介護計画に反映させている。	介護サービス実施表を作成し、短期目標・長期目標に即したケアを点検している。モニタリング時に活用している。職員が2つの居室を担当しており、利用者の状況や変化について、ミーティング時や、ケア会議においてケアマネジャーとの情報交換を行い、介護計画へ反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日頃の様子や、ケアの実践は毎日、介護実施表を制作し記録を残している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人やご家族の要望・状況に合わせて可能な限り柔軟に対応、支援するように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の美容師の方に月1回ほど、訪問してもらっている。また、地域のイベントや、公民館の行事などは積極的に参加している。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者のほぼが、月2回の訪問診療を利用している。専門的な医療が必要な時や、家族が希望する病院へは、家族の付き添いの協力のもと、送迎や医師への情報提供など、必要な事は職員対応にて支援している。	かかりつけ医は、家族の同意を得て利用者全員が訪問診療医へ変更し月2回の受診をしている。週1回の訪問看護で体調管理が行われ、月2回の訪問歯科など地域の医療関係者との連携が図られている。皮膚科などの他科受診については、家族対応としているが、送迎に付き添っていく場合もある。併設するデイサービスに看護職員がおり、職員の相談にも応じている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと契約をかわしており、週1回の訪問がある。健康管理・医療面での助言・相談・対応・医師との連携などを、主な業務としている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は施設から情報提供を提出する。病院の相談員とは連絡を取り、定期的に面会へも行く。退院する際は訪問診療の医師や看護師を含めたカンファレンスを設定する。主治医からの直接の情報提供も行っており、返書は施設職員にも共有できるよう、内容を電話で聞いたりしている。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に意向を伺い、事業所でも終末期のケアができる旨を伝えている。また、ご家族にも重度化した場合における対応について、同意書を取っている。	入所時に重要事項説明と合わせて事業所としての「看取りに関する指針」を明確にしており、重度化や終末期に於いての方針を示し、本人、家族の意向を確認している。状態変化の際も、医師から家族へ説明を行い、その後の対応について、書面で同意を得ている。今年、看取りを経験したが、訪問看護師との医療連携も整っており、職員も不安無く見送る事ができた。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応法のマニュアルを作成し、主治医・家族・病院への緊急体制をとっている。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策委員会を設け、マニュアルを作成している。年に2回の避難訓練を実施しており、備蓄の水や食料も用意している。	昼夜想定避難訓練が年2回行われている。地域住民も見守りとして参加しているが、近隣の方より避難誘導の際、施設内の避難経路や個室の状況を把握したいとの意向で、施設内を案内し、災害時に備え協力体制を築いている。職員は、包括支援センター主催の避難訓練にも積極的に参加している。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々の関わり合いの中で会話・対応について、良くない部分があれば、職員同士で注意するよう努めている。つじつまが合わない事を話す利用者へも、尊厳を損ねない声掛けに注意している。	職員は理念にもある思いやりの「心」と「笑顔」で接することを意識した介護をしており、利用者への声掛けも優しく事業所全体が明るく常に笑い声が聞こえていた。アンガーマネジメントの研修も受講しており、利用者の尊厳とプライバシーに配慮したケアがされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思表示の難しい方へも傾聴の姿勢で二者択一など自己決定を促しながら、時間にゆとりをもってケアを行うように努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の要望、その人のペースに合わせて過ごせるように支援している。散歩や家事なども取入れ、充実した暮らしになるよう働きかけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	頭髪の寝ぐせ直し、髭剃りは、鏡の前できるだけ本人で行って頂いている。介助が必要な方も、顔が見える位置に移動してケアを行っている。また、化粧道具をそろえており、行事や外出の際は、お化粧をして、写真撮影などを楽しんでいる方もいらっしゃいます。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は3食とも、施設の厨房職員で提供している。	厨房で、法人の併設事業所の分も合わせて3食とも手作りされている。現在、食事についてはほぼ自立しており、職員と一緒に同じ食事を時おり声掛けをしながら頂いている。おやつは月に数回事業所で利用者と一緒にヒラヤーチーなどを作り楽しんでいる。時には、ご近所からのバナナや家族の方からの差し入れもあり彩りを添えている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食、摂取量をチェックしている。食欲のない方や、栄養状態が乏しい方などは、栄養補給食品で補ったり、ご本人の食べやすい食事形態にする。器・自助具を使う。など、自立支援を心掛けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは毎日行なっている。必要に応じて訪問歯科を利用している。歯科医にアドバイスを受け、日常の口腔環境の清潔保持に努めている。		
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、個人の排泄パターンを把握したトイレ誘導を行っている。立位が困難な方は2名介助にて行うなど、可能なかぎり自力での排泄を促している。	自立の方2名については、見守り支援を行い、その他の利用者も、日中は全員トイレでの排泄を支援している。車イス対応が可能なトイレが3ヶ所あり、職員の介助負担も軽減されている。夜間については、3人の方が転倒防止を含めてセンサーを使用し、ポータブルトイレを利用されているが、日中は個別支援を行うことによりトイレでの排泄に繋がっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘症の方は、主治医と相談し、緩下剤の調整を行っている。また、水分補給に抵抗がある方は、甘未を付けるなど、摂取量を増やすよう努めている。個人でヤクルトを購入されている利用者もいて、お通じに効果を感じられる為、続けて購入されている。など、職員全員で意識を持って取り組んでいる。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の拒否がある方は、特定の曜日を決めず、天気が良いときなど、本人の気分を害することのないように、声掛けのタイミングに注意している。	浴室は、大きく2人介助も可能な広さがあり、職員が安心して介助ができる。シャワー浴で、週2回程度入浴支援をおこなっているが、浴槽も準備しているので、希望があればゆっくり浸かる事もできる。同性介助を希望する方には対応しており、羞恥心に配慮し、入浴拒否の利用者へも声掛けに様々な工夫をして、取り組んでいる。毎日、足浴を行っている利用者もいる。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠チェック表を用いて、一人一人の睡眠状況を把握している。前夜に休息が取れなかった方へは、表情や姿勢などを観察して、適宜臥床して頂いている。		
47	(20)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報は個別ファイルにて、いつでも閲覧できる所に置いている。また、薬剤師と居宅療養管理指導を結んでおり、電話相談できる環境も整えている。	誤薬の再発防止に向けた整備が行われ、事例報告の場を設けたため、誤薬は無い。誤薬防止のフローチャートを見直し、薬の準備を朝(夜勤)、昼(A勤)、夜(B勤)とし、与薬担当者分け、ダブルチェックを行えるよう改善されている。かかりつけ医の指示で以前に比べると薬の量も減っているため2週間分の薬の管理にも注意して取り組んでいる。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の希望を尋ねたり、家族に聞いた趣味嗜好などを参考にして、手工芸やドライブなどを余暇活動を実践している。		
49	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	遠方への外出は職員の出勤状況・日程の調整をして行っており、月に一度はドライブを計画している。これまでに、親戚の長寿祝いや、年始のお参りなどを実現している。	コロナウイルス感染拡大の中、遠方への外出が困難なため、週1回のドライブで3人ずつ外出支援を継続している。屋根付きウッドデッキでの外気浴は多少の雨でも支障がないため、利用者がお茶を楽しめる憩いの場所となっている。近くの小川の水音も聞こえ、プランターでお花やトマトを育てる等、土と触れ合う事で五感を刺激し、リフレッシュ効果も高まっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	所持金は家族と話し合い、大きすぎない金額に決めている。利用者に希望を聞いて、買い物などの外出を定期的に支援している。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	以前は携帯電話を持参されている利用者もいらしたが、現在は解約しており、電話を使いたい時は、事務所にて通話して頂いている。夜間帯に要望がある事も多いが、夜は避け、日中に時間を決めて案内している。		
52	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日差しが眩しくないように、テーブル・椅子の配置に工夫したり、のれん等で遮光している。リビングでくつろぐ時間はお茶が自由に飲めるように、テーブルに急須や湯呑を準備している。	リビングには、好きなところで自由に掛けて寛げるよう椅子が配置され、調査当日は、食後のお茶を4人の方が楽しんでいた。テレビやカラオケも設置されているが、一人がアカペラで「琉球民謡」を歌うとそれに続いて数名が歌いだし、職員も一緒に歌唱し脳の活性化やリラクゼーション効果にも繋がっている。職員の連れてくる小型犬も利用者の癒しとなっており、利用者が優しく話し掛けている姿が見られた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビい近くにソファがあり、少し横になりたい方や、静かに読書を楽しみたい方が利用している。		
54	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、愛着のある物を持ってきてもらい、住んでいた環境に近い環境作りを心掛けている。本人からの希望や、その他に必要な物があれば、家族に購入をお願いする場合もある。	居室は、明るく風通しも良く掃き出しからウッドデッキに自由に出入りできるようになっている。防災カーテン、タンス、エアコン、ベッドが備え付けられているが、本人の希望で個性ある飾りつけになっており、工夫された棚やお仏壇なども持ち込まれ、自分らしい部屋づくりをしている利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	「できること・わかること」を維持できるように、ADL状況に合わせたケアを行っている。食事の際は車椅子から椅子に移乗し、正しい姿勢を意識して頂いたり、口腔ケアもできる限りご本人で行い、仕上げ磨きは職員が介助するなど自立を促している。		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	利用者家族、知見者の参加があり、意見交換が行われている。地域代表について、自治会長に依頼は行っているが、参加が困難な状況である。自治会長以外の地域住民等に呼びかけ参加できる環境整備に期待したい。	近隣住民の方に参加していただく。また、ボランティア制度を通して、顔なじみの方を増やす。	近隣住民の方へ、文書にて参加をお願いする。また、来所時に、ボランティア制度の説明などを行う。	6ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。